

令和5年度  
第2号

# 広島市乳幼児教育保育支援センターだより

当センターでは、公立、私立の幼稚園、保育園、認定こども園、小規模保育事業所、事業所内保育事業所等から御参加いただき、資質・能力の向上を図るための研修会を開催しており、施設類型の異なる先生方同士で共に学び合う機会となっています。今号では、今年度これまでに開催した研修会の様子について御紹介します。

## 令和5年度第1回広島市幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会（7/5、12開催）

今年度第1回の研修会をJMS アステールプラザで開催しました。（同じ内容で2日間開催）「保育者によるアタッチメント形成～五感を通じた贈りもの～」と題し、比治山大学短期大学部幼児教育科教授、広島市乳幼児教育保育アドバイザー 七木田 方美 先生 に御講話いただきました。2日間で計230名の参加がありました。

### 【受講者のコメント】



「どんな葉っぱを持ってきたのか」についてのエピソードを、同じグループの先生たちが関心をもって聞いてくれ、楽しかったです。

葉っぱを並べる時、大きさや色など視覚的なことで並べていたが、嗅覚や触覚で並べると人それぞれの感じ方があり、とても面白かったです。

コロナ禍で忘れていた嗅覚や触覚の大切さを深く感じた。子どもの感性を育むために、五感で感じる経験を大切にしたいです。

日々の保育には意識していない沢山の「サーブ&リターン」があることを知り、保育でこれを意識していきたいと感じました。

グループワークで他の先生方の具体的な事例を聞いたことが参考になった。様々な保育の方法、視点があると感じました。

愛着や感覚を育てるために、幼児期の大人の関わりが重要であることを再認識し、より一層責任感をもって保育にあたりたいです。

子どもの興味・関心に合わせて環境を構成しているが、それが本当に子どもの目線に立っているのかどうか考えていきたいです。



「サーブ&リターン」は大人と子どもの相互作用による関わり大切さを表現する言葉。子どもの発達の原動力になる「今」を満たすために、子どもに関わる大人はその子どもの素因（気質・体質）にあわせて、個性（興味・関心・能力・主体性）や子どもの自己認識を形成し、心の発達を促すような体験を提供することが大切です。（七木田先生の講話より）

### 第2回広島市幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会の御案内

日時 令和6年2月9日、20日  
場所 広島市総合福祉センター（BIG フロントホール A、B、C）  
内容 実践発表者の保育動画と実践発表から子どもの興味や関心について捉え、グループで意見交換します。  
※ 申込方法など詳細は、各団体等を通じて別途お知らせします。

## 令和5年度第1回広島市幼稚園教諭・保育士主任等合同研修会（8/29開催）

今年度は規模を拡大し、第1回研修会をJMS アステールプラザで開催しました。「子ども主体の保育・教育・遊びを通じた学びを育む環境の構成 - 」と題し、名古屋学芸大学 教授 津金 美智子先生 にグループワークを交えつつ御講話いただきました。幼稚園、保育園、認定こども園、小規模保育事業所等から158名の参加がありました。

子どもの心を動かされる体験となるには、豊かで応答性のある環境にしていくことが重要。子どもは、この環境との相互作用の中で、身体の諸感覚を通して多様な刺激を受け止めていく。（津金先生の講話より）



### 【受講者のコメント】



子どもの写真から、心の動きを読み取り、語り合うことを通して、その大切さを感じました。園内でも語る経験を積極的に取り入れ、積み重ねたいと感じました。

何気ない日々の保育に子どもの育ちが沢山あり、保育者がそれを感じ取り、必要に応じた手立てをしていく、見えない援助の大切さを学びました。

子どもの目線に立ち、子どもが見ているもの・考えていることを読み取ろうとしないと本当の子ども理解にはつながらないと感じました。

子どもが主体的に生きいきと活動するために、保育者がその時々に必要な支援をし、子どもが自ら学びを深めること、保育者が関わり方を日々振り返り評価することが、子どもの育ちにつながると感じました。

自園では、幼保小の連携において小学校の先生に来てもらい、公開保育後に子ども達の育ちを中心に対話をしている。保育で何を大切にしているのか、小学校の先生方に気づいていただく機会になっている。幼保小の架け橋プログラムの中にも、目指す方向性として記載があり、今後も続けていきたいです。

小学校への連携において、遊びを通しての学びで身についた資質、能力がどのようなものなのか、伝える力がいかに大切かということを感じました。子どもの育ちの読み取りを深めていかななくてはならないと痛感しました。

### 第2回広島市幼稚園教諭・保育士主任等合同研修会の御案内

日時 令和5年11月15日（水）  
場所 JMS アステールプラザ スタジオ  
講師 香川大学教育学部学校教育教員養成課程 松井 剛太 准教授  
演題 「特別な配慮を必要とする子どもと保育施設の在り方」  
-インクルージョンからトランスクルージョンへ-  
※ 申込方法など詳細は、各団体等を通じて別途お知らせします。

### 【発行元】 「広島市乳幼児教育保育支援センター」

〒730-8586  
広島市中区国泰寺町一丁目4番21号  
広島市教育委員会事務局総務部教育企画課内  
E-mail: nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp  
電話番号: (082) 504-2833  
Fax 番号: (082) 504-2509

広島市 HP で「乳幼児教育保育支援センター」と検索してください。アドバイザー派遣についての御相談もお受けしていますので、お気軽に御電話ください。





# 幼児期及び幼保小接続期の教育・保育の質的向上について

幼保小の架け橋プログラムでは、各園、校において、以下の3点について求められています。

- ・ 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、**5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え**、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、**カリキュラム・教育方法の充実・改善**にあたる。
- ・ **3要領・指針**、特に「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を**正しく理解し、教育方法を改善する**。
- ・ 架け橋期に園の先生が行っている**環境や子どもへの関わり方に関する工夫**を**見える化し、家庭や地域にも普及する**。



## 【これから大切な視点】

- ☆ **カリキュラム編成を日々行っている教育・保育活動の中身として考える。**
- ☆ **「架け橋期」(5歳児～小学校1年生)の2年間を見通して一体的に捉える。**
- ☆ **小学校区内にある幼保認こ等の地域単位で子どもの特徴、地域の事情に応じて話し合う。**



そこで、各小学校区における円滑な接続を推進するため、今年度は、中、安芸、安佐南区の園、学校の先生方を対象とし、小学校教育との円滑な接続に必要な視点や考えを共有する研修会を開催しました。(同じ内容で4日間開催)4日間で152名の参加がありました。

## 令和5年度各区における幼保小接続に関する研修会(8/8、9、21、22開催)

「子どもの探究から考える保幼小接続：保育者と小学校教師の対話を通して」と題し、広島大学大学院人間社会科学研究科教授 中坪 史典 先生 にグループワークを交えつつ、幼保小接続に係る国の動向、幼児教育と小学校教育の連携・接続の視点について、御講演いただきました。

子どもへの声掛けについてグループで考えることができ、子どもが主体的に遊べるよう、子どもの声を聴き、興味・関心を取り入れていきたいと感じました。(保育園)

保育者の意図や思い、実践について知ることは小学校教育に生かせることが多いと実感しました。「主体的・対話的で深い学び」、「探究」をキーワードに連携を深めたいです。(小学校)

小学校の先生と十分に話す機会が少ないため、地域の小学校の先生と話すことができてよかった。園と学校では、日常の小さなことにもギャップがあることが分かり、そういったことを話し合う機会が増えていくとよい。(認定こども園)

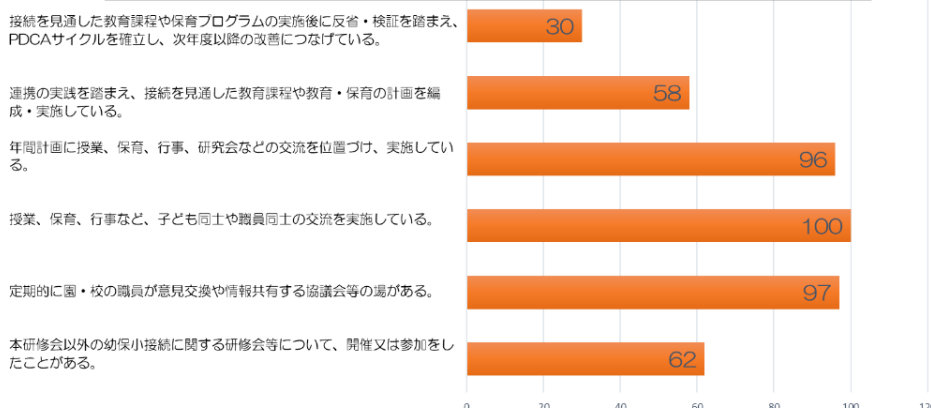


講演後、同じ地域の先生と子どもたちに「言葉による伝え合い」が不十分であることを共有し、そのことに力を入れて育成したいと感じました。(小学校)

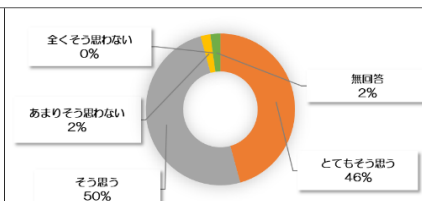
近隣の園・校の先生と意見交換するよい機会となった。講話・グループワークにより豊かな遊びが学びにつながることを小学校の先生に伝わり、嬉しい。このような機会が増えると、壁や躓きを改善するきっかけとなります。(幼稚園)

連携は行事的な位置づけではなく、意義のある取組にしたい。園の先生方は活動の結果ではなく、経過を細やかにみとる姿勢があり、見習いたい。(小学校)

### 各所属において実施している幼保小の取組(参加者へのアンケート結果)



### 幼保小接続の取組を進めていくために役立ちましたか。



来年度は他の区においても開催を予定しています。